森林/木材加工産業の全体的・永続的な利用方策

1）小鹿野町の森 “100年” を考える

・多くの木を使う＝沢山の森を育成
　→木の使用量を最大化するため、純木造の庁舎
・収穫期に入った町内森林の資源活用モデルを提示
　→大径木を有効に活用するため、木取に配慮した部材規格

2）地元に根付く木材供給体制を構築する

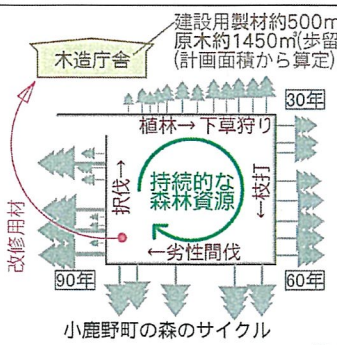
・「(仮)小鹿野町木材供給企業体」の結成を支援
・町内業者の関与を最大化する木材生産体制を提案

3）確実に町の木材で庁舎建設を実現する

・木材先行発注を円滑に実施し、地域の林業・木材業者に役割を作る木材コーディネーターを設計チームに配置

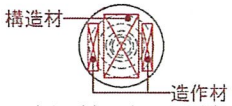
4）小鹿野町の森と技術で、庁舎が守り続けられるようにする

・特殊な技術と設備が不要な一般的な在来軸組構法を採用
・構造部材や仕上材は、補修や交換が容易なディテール
・施工段階で町民が工事に関与できるワークショップを企画

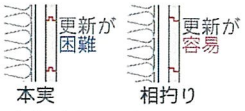


小鹿野町の森のサイクル

木造庁舎の波及効果
町民の森への関心
地場産業振興
経済効果
災害防除
⇩
今後の積極的な木材使用を加速
⇩
健全な森のサイクルが復活



歩留が良い木取りの例

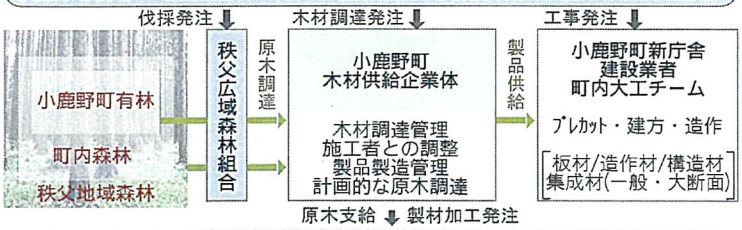


交換が容易なディテールの例

■木造庁舎の実現に必要となる仕組み(案)

埼玉県木造建築技術アドバイザー

小鹿野町役場 ＋ 施設設計チーム　(施設設計・供給体制構築支援・木材調達監理)



町内外の製材所等に製造能力や工場認定有無に応じた適材適所の製材加工指示

小鹿野町内製材所等	秩父木材協同組合	隣接地域生産体制
粗挽製材・天然乾燥	人工乾燥・JAS製材格付	集成加工等

■町内業者の関与を最大化するための生産体制(案)

製品種別 / 製造工程	構造材 製材	構造材 集成材	羽柄材 下地材	仕上材 枠材	造作 家具
	先行発注			建設工事発注	
伐採搬出	森林組合および近隣民間素材生産会社や自伐林家などの町内生産者の関与を検討				
一次製材 天然乾燥	町内	(町内)	町内	町内	町内
二次製材 機械乾燥 モルダー	町外	県内 集成材工場	町内	町内	(町内)
JAS 格付 集成加工	秩父圏 JAS工場	県内 JAS工場			

→大規模工場でなくても、製品化可能な材を多く使用し、町内企業の関与を最大化。

森の町、小鹿野の木材の魅力を示す活きた展示場となる庁舎

1）小鹿野町の風土に調和する親しみやすく、風格のあるデザイン

・外部から見て、木造らしさが伝わる外観
・まちの景観に配慮し、水平に伸びる深い軒先で、屋根のボリューム感を軽減し、軽やかな印象とヒューマンスケールをつくる
・憩いの場となる芝生敷きの交流ひろばを大通りに面して設置

2）木を最大限に活用し、木現しのダイナミックな架構

・町内産のスギやヒノキ、カラマツを構造材としても有効に活用し、樹種の特性を意匠に活かせるように、魅せながら使用

3）木の本質的な魅力(木目、色艶、香り)を損なわない内外装計画

・木質材を視覚的効果の高い軒下や外壁(高耐久処理)に使用

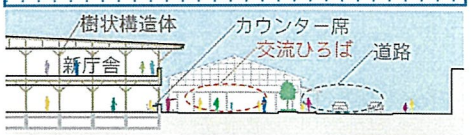
4）町内産木材と小鹿野町の伝統文化を活かした仕掛け 木の温もりが感じられる家具

・手で触れる機会の多い箇所には木製家具や手摺を設置

小鹿野町の「技術と伝統」で、愛着ある仕掛けを考案

・歌舞伎衣装の紋様と小鹿野町の和紙を用いた内装材を提案
・町内イベント「竹あかりプロジェクト」とコラボレーションし、庁舎内の一部に、演出照明として設置

着色したパース等の視覚的表現のため、実施要領11(3)の規定により、見えない状態とした



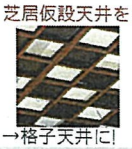
歌舞伎衣装紋を…

→内装サインに！

竹灯りを…

→照明器具に！

芝居仮設天井を…


→格子天井に！

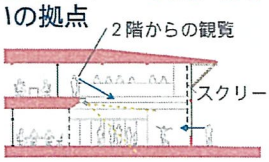
町の魅力を伝え、町民の様々な活動を支える「町民大広間」

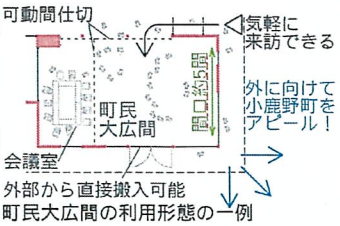
1）木で包まれた、町民大広間＝にぎわいの拠点

・入口で人々を迎える町民大広間は、多様な使い方（小鹿野歌舞伎や特産品のマルシェ、講演、演奏会、展示等）が可能。気軽に使える小鹿野町の賑わいと交流の新たな拠点空間。
・暗転可能な遮光スクリーンや調光照明、プロジェクターの設置を検討。

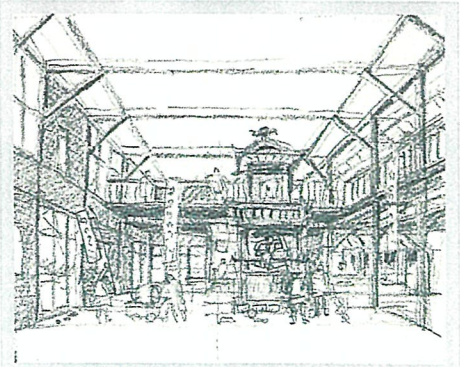
2）災害時は、救援情報センター

・外部からの視認性が良く、アクセスが容易のため、災害時には救援情報センターとして機能。2階の災害対策本部(町長室付近）にも近い。





町民大広間の利用形態の一例


祭りや歌舞伎小屋になる町民大広間の使用例